



## ■コース生(第二期生)の活動報告



**田邊 和大**

総合理工学府  
 環境エネルギー工学専攻  
 修士 2年

ご無沙汰しております。量子プロセス理工学専攻、光エレクトロニクス研究室所属の田邊です。7月より、グリーンアジア国際戦略プログラムの1つであるプラクティススクールのため、国内インターンシップとして神奈川県にあるNTTの研究所へ行ってきました。

本インターンシップではマルチコア光ファイバー伝送技術の長距離化に関する検討実験に参加させて頂きました。実用化に向け、実際の伝送を想定して200機以上のDFBレーザー、約200kmのマルチコア光ファイバーやその他必要なデバイスを用い、それらの実験系の組み立て、伝送実験を行いました。大学の研究室ではこれほどの大規模な実験を行うことはとても難しいため、かなり貴重な経験をさせて頂きました。

またこのNTT研究所の、研究員のほとんどの方々が博士号を取得しており、新入社員である研究員の方々は博士号取得のため、研究に励んでおりました。私も負けられないよう、努力したいと思います。



**米田 亮太**

総合理工学府  
 量子プロセス理工学専攻  
 修士 2年

私がこのグリーンアジア国際戦略プログラムのコース生となってから一年が過ぎようとしています。この一年間、専門であるアナログ回路センサの研究開発に加え、経済学や環境学等の多岐にわたる授業、企業でのプラクティススクールや他研究室でのラボローテーションなど通常の修士課程では体験できない貴重な機会を得てきました。



その中でもNTT研究所で実施したプラクティススクールは、産業の第一線で活躍する研究者の指導のもとで技術的な知見を広げることがもちろん、研究者としての心構えを肌で感じる良い経験でした。博士取得後企業での就職を目指す私にとって、自身の実力不足を痛感するとともに、キャリアパスを考える上で役立つであろう指標を得ることができたと考えています。

プラクティススクールやラボローテーションに共通して言える大きな特色は、学生が第一人称的に行き先を選択できるということです。自発的に考え、行動できる環境を提供して下さる本プログラムの教授陣をはじめスタッフの皆様は、この場を借りてお礼申し上げます。

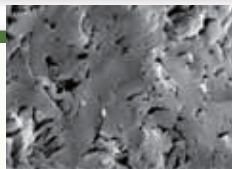


**濱田 夏彦**

総合理工学府  
 環境エネルギー工学専攻  
 修士 2年

私は昨年10月より、九州大学におけるリーディング大学院グリーンアジア国際戦略プログラムのコース生になりました。現在、核融合炉実現に向けたプラズマの基礎研究を九州大学にあるQUEST(トカマク型プラズマ閉じ込め装置)で日々おこなっています。核融合炉の実現は世界中で深刻視されているエネルギー枯渇問題の解決につながる非常に重要な研究として期待されています。そのような研究に携われることを非常に嬉しく思っています。それと並行して、グリーンアジア国際戦略プログラムのコース生として、研究室ローテーション、企業への研究インターンシップなどを経験し、今後さらに特別で有意義な経験が出来ることを非常に嬉しく思っています。グリーンアジアコース生として様々な経験を積み、幅広く物事を考えることができる人間になりたいと考えています。

私の趣味はダンス、スノーボード、一人旅です。体を動かすこと、人と関わるのが大好きです。大学院生になってからは、1ヶ月半かけて東南アジア7ヶ国をバックパックで一周しました。沢山のひととの出会い、見たこともない景色、様々な経験を積み一回り成長した自分に出会うことが出来ました。今後もグリーンアジア国際戦略プログラムコース生を通して様々な経験を積み、一人の人間として日々成長し続けていきたいと考えています。今後ともよろしく願います。



**檜崎 優**

総合理工学府  
 物質理工学専攻  
 修士 2年

私は総合理工学府物質理工学専攻の檜崎優です。所属している佐藤研究室では光などの外場刺激により磁化する錯体の開発を行っています。現在はグリーンアジアプログラムのラボローテーションにより液晶科学をご専門にされている量子プロセス理工学専攻の菊池・奥村研究室に所属し、新規な液晶材料のためのキラル剤の開発を行っています。具体的には、はじめにキラル剤の分子設計を行い、それに基づき、有機合成を行い、新規なキラル剤の合成に成功しました。これから、合成したキラル剤の物性測定を行っていきたくと考えています。また、8月20日から9月19日の約1ヶ月の間、つくば市にある独立行政法人物質・材料研究機構(NIMS)でプラクティススクールを行う予定です。NIMSでは超分子化学をご専門にされている竹内正之先生の研究室に所属させて頂き、超分子化学を用いた発光材料について研究する予定です。ラボローテーション同様、1つでも多くの結果を残せるように切磋琢磨していきたいと思っています。